

\*\* 2019年12月改訂（第6版、販売名変更等）  
\* 2008年6月改訂

貯法：室温保存  
使用期限：製造後3年（外箱に表示）

日本標準商品分類番号
872359

## 緩下剤

# \*\*ピコスルファートナトリウム錠2.5mg「FSK」

## \*\*Sodium Picosulfate Tablets 2.5mg “FSK”

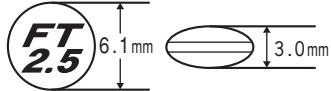
（ピコスルファートナトリウム錠）

**承認番号	30100AMX00050000
**薬価収載	2019年12月
**販売開始	2000年11月

### 【禁忌】（次の患者には投与しないこと）

- (1) 急性腹症が疑われる患者〔腸管蠕動運動の亢進により、症状が増悪するおそれがある。〕
- (2) 本剤の成分に対して過敏症の既往歴のある患者

### \*\*【組成・性状】

組	販売名	ピコスルファートナトリウム錠2.5mg「FSK」
	成分・含量（1錠中）	日局ピコスルファートナトリウム水和物2.5mg
成	添加物	結晶セルロース 乳糖水和物 ヒドロキシプロピルスターチ 精製白糖 酸化チタン プロピレングリコール ヒプロメロース ヒドロキシプロピルセルロース ステアリン酸Mg 青色2号
	色・剤形	白色のフィルムコーティング錠
状	形状	
	識別コード	FT2.5

### 【効能又は効果】

- 各種便秘症
- 術後排便補助
- 造影剤（硫酸バリウム）投与後の排便促進

### 【用法及び用量】

- 各種便秘症  
通常成人には1日1回2～3錠（ピコスルファートナトリウム水和物として5.0～7.5mg）を経口投与する。  
7歳以上の小児には1日1回2錠（ピコスルファートナトリウム水和物として5.0mg）を経口投与する。
- 術後排便補助  
通常成人には1日1回2～3錠（ピコスルファートナトリウム水和物として5.0～7.5mg）を経口投与する。
- 造影剤（硫酸バリウム）投与後の排便促進  
通常成人には1回2～3錠（ピコスルファートナトリウム水和物として5.0～7.5mg）を経口投与する。  
（ピコスルファートナトリウム水和物としての一般的用量は3.0～7.5mgである。）

なお、年齢、症状により適宜増減する。

### 【使用上の注意】

#### 1. 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。  
以下のような副作用があらわれた場合には投与を中止する等、適切な処置を行うこと。

種類 \ 頻度	頻度不明
消化器	腹部不快感、腹痛、悪心、嘔吐、腹鳴、腹部膨満感、下痢等
皮膚	蕁麻疹、発疹等
肝臓	AST(GOT)上昇、ALT(GPT)上昇等

#### 2. 高齢者への投与

一般に高齢者では生理機能が低下しているので減量するなど注意すること。

#### 3. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与

妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。〔妊娠中の投与に関する安全性は確立していない。〕

#### 4. 適用上の注意

薬剤交付時：

P T P包装の薬剤はP T Pシートから取り出して服用するよう指導すること。（P T Pシートの誤飲により、硬い鋭角部が食道粘膜へ刺入し、更には穿孔をおこして縦隔洞炎等の重篤な合併症を併発することが報告されている。）

### \*\*【薬物動態】

溶出挙動<sup>1)</sup>

ピコスルファートナトリウム錠2.5mg「FSK」は、日本薬局方外医薬品規格第3部に定められたピコスルファートナトリウム錠の溶出規格に適合していることが確認されている。

### 【臨床成績】

22施設、446例について行われた一般臨床試験の成績は次の通りであった。<sup>2)～14)</sup>

対象疾患名	症例数	有効率（有効以上）	
各種便秘症	260	70.4%（183/260）	
	慢性便秘症	194	70.6%（137/194）
	透析による便秘	31	54.8%（17/31）
	褥瘡の便秘症	35	82.9%（29/35）
術後排便補助	30	66.7%（20/30）	
造影剤投与後の排便促進	156	98.1%（153/156）	

※【薬効薬理】

1. 薬効薬理<sup>15)</sup>

本剤は大腸において、大腸細菌叢由来の酵素により加水分解され、活性型のジフェノール体となり腸管粘膜を刺激し、大腸の蠕動運動亢進作用と水分吸収抑制作用により緩下作用を示す。本剤のラットでの50%瀉下有効量(ED<sub>50</sub>)は1.1mg/kgであり、センノシド剤は3.6mg/kg、生薬配合剤(センナ葉、センナ実等)は165.0mg/kgであった。

2. 生物学的同等性試験<sup>16)</sup>

雌雄日本ネコ(n=10)にピコスルファートナトリウム錠2.5mg「FSK」及び標準製剤(液剤、0.75%)を、それぞれ低用量(ピコスルファートナトリウム水和物として10mg/head)及び高用量(ピコスルファートナトリウム水和物として40mg/head)の2段階とり、クロスオーバー法による単回投与を行い、緩下作用を糞便の外観形状のスコア及び糞便中水分率を指標に検討した結果、両剤の生物学的同等性が確認された。

判定パラメータ

糞便中水分率(%) (Mean±S.D.、3日間、n=10)

	低用量	高用量
ピコスルファート ナトリウム錠2.5mg「FSK」	71.4±4.4	68.0±2.5
標準製剤(液剤、0.75%)	72.0±4.1	69.0±3.4

【有効成分に関する理化学的知見】

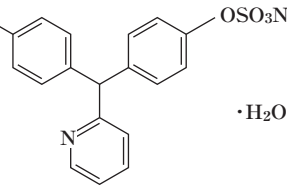
一般名：ピコスルファートナトリウム水和物

(Sodium Picosulfate Hydrate)

化学名：Disodium 4,4'-(pyridin-2-ylmethylene) bis(phenyl sulfate) monohydrate

分子式：C<sub>18</sub>H<sub>13</sub>NNa<sub>2</sub>O<sub>8</sub>S<sub>2</sub>·H<sub>2</sub>O

構造式：NaO<sub>3</sub>SO-



分子量：499.42

性状：白色の結晶性の粉末で、におい及び味はない。

水に極めて溶けやすく、メタノールにやや溶けやすく、エタノール(99.5)に溶けにくく、ジエチルエーテルにほとんど溶けない。光により徐々に着色する。

1.0gを水20mLに溶かした液のpHは7.4~9.4である。

【取扱い上の注意】

安定性試験<sup>17)</sup>

最終包装製品を用いたなりゆき室温(通常の流通下における保存条件)、4年間の長期保存試験の結果、外観及び含量等は規格の範囲内であり、通常の市場流通下において4年間安定であることが確認された。

【包装】

P T P 1000錠(10錠×100)

※【主要文献及び文献請求先】

(主要文献)

- 社内資料
- 成田光陽 他：腎と透析, 27(4), 791(1989).
- 八尾恒良 他：医学と薬学, 22(5), 1379(1989).
- 長瀬行之 他：基礎と臨床, 24(3), 1483(1990).
- 村上穆 他：基礎と臨床, 22(16), 5860(1988).
- 成田光陽 他：基礎と臨床, 23(7), 2679(1989).
- 村井俊介 他：基礎と臨床, 24(3), 1303(1990).
- 川村顕 他：医学と薬学, 23(1), 209(1990).
- 村井俊介 他：基礎と臨床, 22(14), 4997(1988).
- 山崎秀男 他：日消集検誌, 79号, 68(1988).
- 折茂肇 他：老年医学, 28(5), 683(1990).
- 柏木征三郎：臨牀と研究, 67(5), 1530(1990).
- 熊川宏美 他：医学と薬学, 22(5), 1363(1989).
- 増田康治 他：臨牀と研究, 67(5), 1611(1990).
- 社内資料
- 上野光一 他：薬理と治療, 18(1), 71(1990).
- 社内資料

(文献請求先)

伏見製薬株式会社 営業企画部  
〒164-0013 東京都中野区弥生町2-41-5  
TEL 03-5328-7801  
FAX 03-5328-7802